

東日本大震災15年企画

入場無料

知ること

3/11(水)~22(日) 3/16(月)は休館日
10:00~16:00(最終入館15:30)

長崎シビックホール

(長崎市常盤町1-1メットライフ生命長崎ビル2F)

長崎電気軌道「メディカルセンター」下車 徒歩約1分
お車で越しの際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

聞くこと

活かすこと

パネル展

- ・ 3.11キヲクのキロク、そしてイマ。
- ・ 3月12日はじまりのごはん
- ・ 3.11あのとときのホント

アクション ※申し込み不要 当日、是非ご参加ください。

1. 3月11日(水) 14:46(発災時刻) に犠牲者を追悼するため市内サイレンに併せて会場で黙祷します。

2. リレートーク：11(水)～14(土)の13:30～14:30目安のゆるやかな座談会です。

3. メイントークセッション：15(日) 13:30～15:30

発災後、被災地で活動した長崎市民、長崎で支援活動をした方からお話を聞きます。

トークセッション後、参加者と一緒に非常食の試食も計画中！

ゲスト：森恭佑さん、岩本諭さん(ながさき若者会議より)

一ノ瀬恵介さん(有限会社サンヒル興産より)

オンラインゲスト：佐藤正実さん(3.11オモイデアーカイブ 代表)

聞き手：奥村志都佳(Conné～こんね～(長崎の語り部から学ぶ会) 代表)

問い合わせ先 長崎市市民活動センター「ランタナ」
Email: info@ncacl.net TEL: 095-807-6518

共催: Conné～こんね～(長崎の語り部から学ぶ会)・ながさき若者会議・長崎市市民活動センター「ランタナ」

協力: 3.11オモイデアーカイブ・3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)

NPO法人インフィニティ



目的 被災地の市民が撮影した当時の「食事」「生活」の様子や「復興してゆくまち」を伝える写真展示と、長崎市民の支援活動の記憶を語り合う場を通して、災害時に市民同士が助け合い、協力し合うことの大切さを学び、家族で語り合い世代・地域を超えてつながることを目的とします。

パネル展について 「3.11キヲクのキロク、そしてイマ。」

2011年3月11日を境に非日常が日常になった日々の暮らしを、生活者視点で身のまわりを撮影した市民による記録です。

被災によるまちの惨状などの写真はほとんどありませんが、震災を直接体験した市民ならではの視点で撮られた写真は、大手メディアでは伝えきれない様々な市民生活の様子が写されています。

それゆえに、どのまちでも起こりうる災害と置き換え、向き合うことのできる展示型プログラムです。また、今回は震災後に子どもの姿を写した写真を通し、当時の市民生活を見る「窓のうかがわ」も初展示します。

「3月12日はじまりのごはん」

東日本大震災後に市民が撮影した「3.11キヲクのキロク」の写真の中から、食卓や炊き出し、飲食店など食べ物に関する写真をセレクトした「3月12日はじまりのごはん」。震災後に初めて口にしたのは“いつ、どこで、なにを食べたのか”を思い出しながら、“食”を通し誰もが自分事として災害を語ることができる展示・参加型プログラムです。

「3.11あのときのホント」

「今だから言える・聞ける 障害児の親の声」を冊子で紹介します。自閉症の子を持つ親が、震災時に経験した障害児者の家族の困りごとを記録に残し今後に活かしたいという思いから、当事者が似た立場にある親たちに会って当時の体験の聞き取ったこれまで表に出てこなかった声を紹介します。

